

新聞時評



文化活動団体代表
「熟塾」原田彰子

秋田・田沢湖町を本拠地に活躍する劇団わらび座。

7月に79歳で永眠された元代表・原由子さんが生粋の浪花女というご縁があった。そのつながりで8年前、阪神大震災チャリティー公演として、秋田の「真山なまはげ伝承会」と私たち「熟塾」のメンバー

や大阪市民との合作劇を大阪「ワッハ上方ホール」で上演した。00年の年越しには、雪が舞う秋田・男鹿の民家のいりり端を、大阪から押しかけた「熟塾」メンバーが埋めた。「悪い子はいなかあ」。「なまはげ」が戒め、ことほぎながら家族を巡って歩く。「子供たちよ、幸せであれ」。伝承行事の中で、命の継糸として次の世代へ紡がれてきたこの祈りはどこにいくのだらう……。



終戦60年の夏、政局は動いた。衆院解散、総選挙へ郵政法案大差で否決という8月8日夕刊1面の大見出し。2面は法案中身置き去り、権力闘争むき出しと、2年ぶりの衆院選へと戦いの火ぶたが切られた。10日朝刊1面では「郵政」反対小林議員に對抗、小池環境相が出馬へ」と、反対議員に対する

自民の対立候補擁立の動きを報じた。16日朝刊1面は

「この一票大切に」
まして女性が参政権を得たのは1945(昭和20)年12月。戦前まで日本の女性には、男性の選択に運命を任せ、戦火の下に生きるしかすべがなかった。しかし今は選挙権がある。自らの手に日本の未来を左右する一票を持っている。有史以来、戦後を生きる女性のみが持ちえた権利であること

選挙の判断材料の提供、投票日まで

▲本社世論調査 「刺客」手法50%評価 「しない」も43% 「刺客」という血生臭い名称が登場し、20日朝刊3面には▲首相が演

▲田中知事代表に新党「日本」としてに新党が出現。社会面では連日▲小泉政乱・同時進行ドキュメントとして、日々の動向を細かく分析した。一方で、17日夕刊で▲アスベスト 悪質リフォーム 対策中断 具

11日朝刊5面の社説 ▲「小泉劇場」に振り回されずに、本番の選挙を単なる小泉首相の人気投票に終わらせないよう、各陣営の戦い方をじっくり見極めたい」と結ばれていた。

出「劇場型」 国替え閣僚ノ女性キャリアノホリエモン」の見出しもあった。

朝刊7面に▲民主党マニフエスト2005が要旨としてそれぞれ掲載されるなど、各党の公約も詳報されていた。

有権者こそ主役

18日朝刊1面では▲「国民新党」を結成 代表は綿

今日(30)日は衆院選の公示日だ。紆余曲折の道のりを経て、選挙戦が始まる。今までは「観客」に回っていたかもしれない有権者は、今度は「主役」であるという心構えを持つべきだろう。何を「踏み絵」にするかは、

9月11日の投票日まで、紙面で、読んでじっくりと選択できる「見極め材料」の提供を切望する。「なまはげの祈り」とともに、次世代の子どものための幸せを約束できるような未来を視野に入れ、この一票を大切にしたい。

▲「小泉党」 報復恐れ動揺。22日朝刊1面には

各党の公約に十分に目を通し、一票を投じよう。

この論評は大阪本社発行最終版をもとにしました。